

母校野球部ベスト8

第101回全国高校野球選手権大会・西東京大会

2019 (令和元) 年 7 月 23 日 (火)

神宮球場で準々決勝・対創価高校戦に臨む



神宮球場 3 塁側応援席より
(高 35 期川原口さん提供)



部活動応援号

号外

都立唯一、西東京ベスト8!

「初戦の2回戦を突破したのが、一番の力になった」と野球部OBが口を揃えて語った。

都立の強豪校を何校も率いてきた、平岩了監督が就任してから4年目の今年、チームは接戦を次々に制し、勝ち進んだ。昨秋と今春、どちらも初戦敗退、しかし今回は違った。勝つ度に強くなる、そんな感じだったという。

なんといつても素晴らしかったのは、ベスト8進出を懸けた練馬高校との都立対決。今大会でも珍しい、「タイブレーク戦」に持ち込み、勝敗が決したのは延長14回、熱闘3時間の大試合だった。この試合に勝ち、創部以来初の「ベスト8」に神宮球場行きの切符を手にした。大会前、選手達の目標がベスト8、これを見事達成した。

SNSなどでの呼びかけもあり、ベスト4を懸けた準々決勝(対創価高校)では、多くの同窓生が応援に駆けつけた。

残念ながらここで敗退となったが、テレビ中継の解説者に「粘り強い!」と言わしめた投手をはじめ、チームの頑張りは素晴らしかった。そして、負けたにもかかわらず翌日の主要3紙のスポーツ欄は豊多摩を、「笑顔を絶やさず」と記事で

取り上げた。「全力を出し切り、笑顔で試合を楽しむ」と選手全員が決めていたそうだ。朝日新聞社が発行しているベスト8高の特集誌(非売品)でも、「今大会のベストチームの一つだった」との評価だったことは、本当に素晴らしい。

7回表、応援席では校歌の大合唱。多くの同窓生から、「神宮で応援出来るなんて夢のよう」「OBを神宮に連れてきてくれてありがとう」の声が寄せられた。ベンチ入り出来なかった選手も含め、チーム全員にお礼を言いたい。そして、「次はもっと上を」、「甲子園で校歌を歌いたい」、という声がたくさん届いていることも、ぜひ皆さんにお伝えしたい。今後を楽しみにしている多くの同窓生がいるのだと。

まもなく秋季大会が始まる。3年生が引退した新しいチームの活躍と健闘を祈る。

●試合後の神宮で:
試合後、球場近くの居酒屋では残念会をしていた同窓生が多くいたとの報告が多く寄せられました。ほとんどのお客が豊多摩同窓生というお店も。初対面にもかかわらず、一瞬のうちに意気投合、世代を越えた同窓生の交流が持てたところもあつたそうです。これも野球部の皆さんのおかげです。感謝!(高33期・隈本)

残念ながらここで敗退となったが、テレビ中継の解説者に「粘り強い!」と言わしめた投手をはじめ、チームの頑張りは素晴らしかった。そして、負けたにもかかわらず翌日の主要3紙のスポーツ欄は豊多摩を、「笑顔を絶やさず」と記事で



豊多摩同窓会

〒166-0016
東京都杉並区成田西 2-6-18

2019 (令和元) 年 9 月 7 日発行

公式サイト 豊多摩リンクス toyotama.org
FAX 03-3398-3746 jimu@toyotama.org



創部以来初の神宮球場に多数の同窓生集う



野球部OB会
公式サイト



新聞など
メディアにも
記事が
載りました

神宮球場での準々決勝が決定し、同窓生がTwitterで「応援に来る人は何か黄色い物を身につけてきてください」と呼びかけたところ、PTA製作のマフラータオル・お手製の黄色い団扇・野球部父母の会製作のTシャツなど、思い思いの黄色いグッズで、応援席は見事に黄色になりました。

吹奏楽部はOBとの合同演奏会やコンテストを控えていたにもかかわらず、やはりTwitterで「一緒に演奏してくれるOBの方、楽器を持って集合してください」と呼びかけ、素晴らしい演奏で応援を盛り上げました。

チアリーダーは体操ダンス部員。はつらつと応援してくれました。たぶん同窓生の方は「豊多摩にチアリーダー」とビックリされたのではないのでしょうか。

さらに、サッカー部・陸上部・軽音楽部などの生徒も駆けつけ、応援席の人数は過去最高を記録。平日なので有給休暇を利用したという強者のOBも。保護者の方もたくさん参加され、文字通り「オール豊多摩応援団」となりました。

平岩監督によると、選手には、球場での応援は、とても力になったそうです。球場に来られた皆様、応援ありがとうございます。そして、ご協力頂きました多くの方々に感謝致します。

今後の試合日程などは、野球部OB会のHP、豊多摩リンクスなどで紹介しますので、これからも皆様の応援、よろしくお願い致します。

平岩 了監督 インタビュー



8月24日、中学生対象の体験入部の前にお話を伺いました。部員は3年生15人、2年生14人、1年生14人。夏の大会をもって3年生は引退したそうです。

—まずは準々決勝進出、ベスト8お疲れ様でした。今大会を振り返っての今のお気持ちはいかがですか。

本校はこの1年グラウンド改修工事があり、練習などに制限があった中で、部員達が良くがんばり、いい結果を出してくれたと思います。

—神宮球場での選手達の様子は。

目標を達成した感じですね。負けても笑顔でした。応援も励みになりました。雨続きでも1回も日程変更がなく、投手のコンディションも良かった。運もありました。

—今大会でいけると思ったのはいつですか。

初戦の専修大付属高校との対戦を突破した時です。相手は公式戦で一度も勝っていなかったし、練習試合でも分が悪くなかったので、流れができました。

—着任して4年、部員達と初めて会った時の印象は。

「能力はあるが、欲がない」と思いました。

—意識を高めていくには。

野球以外で上達の道があると思う。家庭生活・学校生活、授業中の集中力や行事への取り組みなどが競技力に影響してくるんだろうと思います。

—創価戦翌日から練習をされていたが、雰囲気は。

良いムードでした。今回は秋季戦(新人戦)です。目標設定が難しい。今の子の気質なのか現実的なのか、「優勝」とか「甲子園」という言葉は出てこない。そこにギャップはあります。でも今年の2年生らの意識は高くいい雰囲気があります。

—監督の今後の目標は。

最終目標は「甲子園で校歌を歌う」です。

聞き手：嶋林(高36期) 協力：野球部OB会 馬場(高28期)・山川(高36期)



吹奏楽部とOBの渾身の応援演奏

ベンチ入りできなかった部員達もスタンドでチア達と一丸となって声援

野球部 主将 加藤佳祐
 野球部 72期保護者の会 会長 大室明美
 豊多摩高等学校 PTA会長 豊川宜江
 豊多摩高等学校 校長 吉田寿美
 豊多摩同窓会 理事長 藤井 研一(高16期)
 豊多摩野球部OB会 会長 谷中 哲雄(高21期)

3年生にとつて最後の公式戦となった本大会。選手たちが掲げた目標は、「神宮球場でプレイすること」でした。最初に聞いた時は、とても大きな目標にとっても驚きました。彼らが見事にその目標を達成してくれました。一戦一戦が、彼らにとって、目標を達成していく選手たち。劇的な試合の連続で、まさか！という衝撃と喜びを何度も何度も味わってしまいました。

そして、大変多くの方が、野球部を応援してくださったことに深く感謝いたします。皆様から頂いたエールが本当に選手たちの力になりました。最後まで応援していただき、どうもありがとうございました。

今回の試合は、多くの応援があり、目標としていた「神宮球場でプレイする」という目標を達成することができました。特に、秋、春と初戦敗退という悔しい思いをしましたが、今年はこのまま夏も初戦で引退してしまうのではないかと焦っていました。朝の練習も、結果として、練習の意欲が変化しました。朝の練習も、結果として、練習の意欲が変化しました。朝の練習も、結果として、練習の意欲が変化しました。

選手たちは、朝の練習も、結果として、練習の意欲が変化しました。朝の練習も、結果として、練習の意欲が変化しました。朝の練習も、結果として、練習の意欲が変化しました。

豊多摩高等学校 豊多摩高等学校 PTA会長 豊川宜江
 豊多摩高等学校 校長 吉田寿美
 豊多摩同窓会 理事長 藤井 研一(高16期)
 豊多摩野球部OB会 会長 谷中 哲雄(高21期)

7月11日の豊多摩の初戦相手は専修大学付属高校。スタンドは野球部員、応援部員、チアリーダー、吹奏楽部員生徒さん、選手の保護者、野球部OB、同窓会員等で総勢2000人はいたのだろうか。

試合は前半は2対2、6回に豊多摩は2点を入れ4対2と勝ち越した。

いよいよ最終回、専大はヒットとフォアボールで2アウト2・3塁の絶好の同点チャンス。ここでバッターはライト前ヒット。やられたあ。3塁ランナーに続き2塁ランナーも一挙ホームへ突っ込む。ライトからの好返球。滑り込むランナーにタッチ。主審の右手が大きく上がりタッチアウト。滑り込んだランナーは暫く立ち上がり、豊多摩の選手はホームベース脇で歓喜の抱き合い。素晴らしい幕切れてしまった。これぞ文武両道。

豊多摩高等学校野球部、西東京大会ベスト8。本当に素晴らしい結果です。

私も、試合の応援に行きました。選手たちのはつらつとしたプレー、応援席の歓声。マウンドとスタンドが一体になっていました。硬式野球部、生徒、保護者、教員、OB・OG、豊多摩高校の関係者の方々が一つになって戦っていました。まさに、「チーム豊多摩」でした。令和になって初めての夏、豊多摩高等学校にとつて、大変嬉しい出来事でした。

母校の球児の西東京大会ベスト8初進出、熱戦を展開し盛り上がり続けた今夏の豊多摩高校野球部OB会、心沸き立つ日々を送らせて頂き感謝致します。

まず、専大付属との一回戦初戦が今夏の野球部史上初のベストエイト進出への第一歩だったと、過去一度も勝てなかった相手に、先制されたながらも追い付き追い越し、宮下投手の苦手に最終回をライトからの好返球で本塁前でタッチアウトとして終わらせた劇的な勝利でした。

第四回戦は予想外の練馬高校が勝ち進み、試合開始早々に3点を先制されたが、追い付き追い付きで、タイブレークでサウナラ勝ちを収め、神宮球場行きを決めた歓喜はOB達にとつても最高潮だったのです。

平岩監督の叱咤激励が有って、全部員の目標に向かう熱意が、切磋琢磨した努力の結果がこの快挙を生み出しました。豊多摩硬式野球部OB会は、今後も現役選手への活動に陰ながら寄り添い、次なる目標達成、最終的には甲子園出場達成に向けて、ひたすら応援を続けていきたいと思っています。

まず目標の神宮球場進出達成おめでとう！

専修大付 010 001 001 | 3
 豊多摩 011 002 00x | 4

東京都市大付 001 000 001 | 2
 豊多摩 030 101 00x | 5

豊多摩 000 001 011 | 3
 松が谷 000 100 000 | 1

練馬 300 010 000 000 00 | 4
 豊多摩 102 010 000 000 01 | 5
 (延長14回、13回からタイブレーク)

豊多摩 000 000 0 | 0
 創価 300 031 x | 7
 (7回コールド)

7月11日(木) 2回戦 多摩一本杉球場

対 専修大学付属高校 4-3



7月15日(月・祝) 3回戦 多摩一本杉球場

対 東京都市大学 付属高校 5-2



7月17日(水) 4回戦 市営立川球場

対 都立松が谷高校 3-1



7月20日(土) 5回戦 市営立川球場

対 都立練馬高校 5-4



保護者の方から

- 準々決勝進出の原動力のすべては初戦の相手、格上の専大付属高戦の勝利にあったと思います。試合前のボール回しを見て気力が充満しているのがはっきりと分かりました。「神宮へ行く」決意を有言実行した選手達はあっぱれです。
- 子供たちの勇姿を残したくて試合の写真を撮り続けました。ファイナダー越しに多くの時間を共有できたことが最高の幸せでした。
- 野球を途中でやめる事なく、最後までやり続けてくれてありがとう。そして最高の感動をありがとうと言いたいです。
- 呼吸を忘れるぐらいドキドキしてました。あの場面で打てて良かったです。(練馬戦決勝打)
- この夏、野球部 72 期生 17 人の活躍を間近に見れて、これほど「暑い夏、はなかった…本当に楽しかったです。ありがとう。新チームのみなさんへ、さらなる高みを目指して頑張ってください。これからもずっと応援していきます。(3年父母一同)

※一部抜粋させていただきました

写真提供：野球部OB会/高35期川原口さん/高36期野瀬さん 資料提供：野球部OB会 高28期馬場さん・高36期山川さん

編集後記

野球部OB会の悲願でもあった神宮行きが決まると、同窓生から事務局に、「次々に、「会報で特集して欲しい」との声が寄せられました。」

しかし、9月1日発行の会報はこの時既に印刷開始後、発送準備も始まっています。それでもこの快挙はどうしても早いうちにお伝えしたいと思っているところに、文芸部の全国大会出場のお知らせ。それもぜひお知らせしたい！という事で、初の号外発行について理事会で緊急話し合いを行い、発行とあいなりました。

ただ会員全員に発送するには時間的にも予算面でも無理なので、記念祭と10月に開かれる同窓会総会のみでの配布です。ご了承ください。

このような短い期間に号外の発行ができたのも、ひとえに野球部OB会のご協力あってこそでした。野球部顧問平岩了先生(監督)はじめ野球部の皆さんにもお忙しい中お話を聞かせていただきました。

各コメントをお寄せいただきました。また、会員から様々な写真提供をいただきました。この場をお借りし、関係各位に心より御礼申し上げます。(会報委員会)

文芸部 全国大会出場

2年連続

第43回全国高校総合文化祭 佐賀大会

関東大会 5年連続

伊万里市 7月27日(土)～31日(水)



大会マスコットキャラクター あさぎちゃん 文芸部門

「文芸部誌」「散文」「詩」「短歌」「俳句」の五つの部門に分かれて、作品の鑑賞や創作活動について意見交流をするこの大会に、母校文芸部は2年連続(関東大会は5年連続)で東京都代表として、3名が「文芸部誌」「短歌」「俳句」の部門に参加しました。

今大会では、短歌部門で、参加生徒互選による投票で本校の短歌が「四席」を獲得しました。あまり報道される機会が多くない文芸部門大会ですが、素晴らしい結果を残していることを、ここにお伝えいたします。今後の活躍に期待しています。